

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100100		
法人名	社会福祉法人昌明福祉会		
事業所名	グループホーム 結		
所在地	愛知県名古屋市長区寛政町6丁目25番地		
自己評価作成日	平成28年11月18日	評価結果市町村受理日	平成29年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=2391100100-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成28年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るさと笑顔あふれる場所づくりに努めます」をモットーに運営を心掛けている。
 ・人と人とのふれあいを大切に、かけがえのない時間を大切にします
 ・安全で、清潔感に留意した生活の実現努めます
 ・地域の皆様に信頼される事業所として、質の高いサービスを目指します
 「福祉は人 人は心 心とこころ」という理念のもと 利用者様のこころと向き合うことを大切にし、自身の人生観を養い、人としての成長を職員一同目指して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

荒子川公園や大型ショッピングモールなどがある、生活の息吹を感じる街並みに事業所が位置している。小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービス、サービス付き高齢者住宅、地域包括支援センターが併設された複合施設の2階にホームがある。ドアを挟んで小規模多機能型居宅介護事業所があり、行事やレクリエーションなどを一緒に楽しんでいる。「福祉は人、人は心、心とこころ」を理念に、いつまでも元気で生きいきと過ごせるように、心から入居者と向き合い、ケアに繋がるように努めている。入居者家族が毎月提供している、芸術作品が漂うパネル大の写真が廊下沿いの壁に何枚も飾られており、季節の移ろいを感じながら楽しめる空間となっている。また、絵の好きな入居者が描いた絵も飾られたリビングには、その方が下絵を描きみんなで色付けした作品も飾ってある。窓越しに外の景色が眺められるコーナーのソファに腰掛けテレビを見たり、食卓で新聞を読んだり、職員とお喋りを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念の唱和を行い、全職員が理念を共有できるよう努力している。	理念をリビングの良く見えるところに掲げ、朝礼時に全職員で唱和をし、共有している。入居者一人ひとりが当たり前の生活ができるよう職員間で理念に振り返り、日々のケアに繋げるように努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の傾聴ボランティアの方や近くの幼稚園との交流、地域のイベントに参加・見学などを通して地域との関わりが続けられるようにしている。	幼稚園や保育園と交流があり、保育園の運動会に参加したり、事業所主催の敬老会に幼稚園児を招き一緒に遊んだりプレゼント交換をしている。また、荒子川公園で開催されるイベントに参加し地域との交流を大切にしている。傾聴ボランティアや介護福祉士の実習生も受け入れ、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護事業所の部会に所属し、毎年介護フェアなどのイベントに参加し、認知症や介護についての理解や支援の方法について啓発したり、相談に乗ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の町内会・民生委員さん・老人会町さんなどの参加を得て、活動している。しかしあまり参加率はよくない。	小規模多機能居宅介護事業所と合同で開催し、入居者や利用者、家族、老人会会長、民生委員、地域ボランティア、いきいき支援センター職員の参加を得て年6回実施している。事業所の行事報告や業務の内容の他に、認知症とのかかわり方や食中毒などの議題を決めて勉強会を行い運営に活かしている。会議の議事録は、ファイリングしていつでも見られるよう玄関に置いてある。	議事録は、ファイリングして玄関に置くのみではなく、運営推進会議に参加できなかった方に会議録などを配布し会議内容を知らせるようにしたり、日程調整をしたりして、より多くの家族が参加できるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム単独では市町村と連携をとることも少ないが、併設の小規模多機能型居宅介護を通して市長村との連携を密にしている。(虐待ケースなど)	入居者の申請や更新手続きの代行の折に、情報交換をしたり、行政担当者に指導や助言を得て協力関係を保つようにしている。また、事業所連絡協議会や介護フェアの参加、介護労働安定センター推進事業の受け入れなどを行っている。研修会にも積極的に参加したり、講師を務めたりして、啓発活動に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接身体拘束は行っていないが、エレベーターのロックは行っている。	身体拘束のマニュアルを作成し、朝礼の申し送り時に職員の理解や意識を高める努力をしている。特にスピーチロックに配慮し、束縛感のない生活環境作りに努めている。安全に配慮し、エレベーターはロックをしている。足元センサーマット利用については、家族に説明と同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティングなどを通じて、虐待についての話はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業については特に研修などは行っていない。現在1名権利擁護事業の金銭管理を利用している利用様がいます。以前成年後見制度を利用している利用者様がいたりしたため成年後見制度の概要については、全職員に簡単な概要を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書は管理者や計画作成担当者が責任を持って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来られた時など意見を聞いたりし、運営推進会議へも参加してもらっている。名古屋市の名介研が実施しているユーザー評価に参加するなどして利用者の意見を反映する努力をしている。	入居者からは日常のケアの中で把握し業務日誌に記録しその都度検討をしている。家族の方の訪問時や運営推進会議、ユーザー評価によるアンケート調査等で要望を聞き運営の参考にし、サービスの向上に努めている。今後、意見箱の設置も検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出し合っている。必要に応じて個人面談をして対応している。	日常の業務の中や引継ぎ時、また、会議の中で職員の提案や要望を聞き、運営に反映させるようにしている。夜勤等で会議に参加できない職員には、提案書で意見や提案が反映できるようにしている。また、会議後に申し送りノートで意見の反映を確認している。管理者や計画担当者は、必要に応じて個人面談をしストレスチェック等をしながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に環境については意見を出し合っている。就業規則などに付いても意見を出し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を定期的に行い(内部研修、外部研修)、全職員がスキルアップできるようにしている。しかし、内部研修は終業後の為参加率が低い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者連絡会の施設部会に参加して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントや面接を行い、状況把握したうえで支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や思いに耳を傾け、支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・計画作成担当者がご家族様とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いたうえで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に対して適切なケアの提供を実施しており、状況に応じてサービスの見直しを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも様々な場面において、希望を聞いたり意見をもらったりしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り今迄の生活を考慮して支援している。	入居者が大切に思っていることや馴染みの場所を把握しケアに活かすように努めている。入居者の方の行きつけの美容院に出掛けたり、家族と散歩に行ったりして、今までの関係が途切れないよう支援している。鉢植えや菜園の手入れ、習字や絵画など培った経験や特技を楽しみながら日常に活かすような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人数が少ないといっても一つの社会には変わらないので、そのつもりで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限りの支援をしていく。利用者様が亡くなった後も法人で開催している秋祭りに参加して頂いたりとその後の精神的なフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全体を見つめながら、その人の課題や要望を感じ取れるようにコミュニケーションをとっている。	毎日の生活の中の会話や表情などから一人ひとりの思いをくみ取り職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。介護度が高くなっても医療関係者と連携を取りながら入居者の方の思いを叶えるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りの情報を把握して支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の把握については、すべて記録して職員全体で周知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にのっとりモニタリングを行うようにする。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を記録した個別記録を基に、家族の意見もふまえて、担当者や介護計画作成者で検討し介護計画を作成している。入居者がより良い暮らしができるよう月1回、短期目標を設定しモニタリングをしている。介護計画の見直しは、介護保険更新時に行っているが必要に応じて随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については職員で共有し、良い支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の様々な部署と連携して、課題に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議参加者や、近隣学区の民生委員さんなどと連携して情報を得たりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関と連携して、健康管理に努めている。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選んで頂いているが、提携医に変更される入居者が多い。提携医による月2回の往診や訪問歯科医の受診もあり、適切な医療を受けられるような支援をしている。同施設内に看護師がいるため昼間の対応が可能となっている。また入居者の往診の記録や看護情報の記録があり職員全員で共有し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設小規模多機能居宅介護の看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内の医療機関を通じて、適切な対応をして外部医療機関との協働を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に当施設では重度化した場合や終末期のあり方については本人・ご家族と相談し、主治医とのモニテラなどを通して今後の方針を細やかに決めている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に事業所の方針を説明し同意を得ている。状況が変化した場合はその都度、家族や医師、看護師、職員、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように方針を決めている。主治医と連携を密にし、経過観察をしながら看取りを経験している。ターミナルケアの研修を受け、全職員に周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内の医療機関と連携して対応している。急変時の対応の仕方などのマニュアルは職員に渡しているが、実践的な訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行い、地震や火災などの災害に関し訓練を行っている。運営推進会議時にも周知し、津波などの避難時に事業所の建物に避難しても良いことなどの協力することを伝えている。	消防署の協力の下に、年2回昼間、夜間想定避難訓練を実施し、入居者と全職員で避難経路や避難場所の確認を行っている。設備会社の消防設備点検時にも確認している。運営推進会議で、津波などの災害時に地域避難場所としての周知をしているため、備蓄品の追加やカセットコンロの購入予定を検討している。地域との協力体制は模索中である。	災害時に事業所として地域に協力してもらいたいこと、事業所として地域にできることなどを運営推進会議等で具体的に話し合う機会を設け、相互に協力体制を整えていくことを期待したい。また、地域避難場所として機能していくために、適切な備品の種類や必要数、保管場所などのリストを明確にさせ、職員に周知していくことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の個人情報保護についての取り決めに基づいて実施している。	日々の生活の中で、人生の先輩として一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。職員が入居者を思いやり、日々のケアの中で、安心感や信頼感、心地よさを与えられるように管理者は、接遇研修にも力を注いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に利用者様の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合をなるべく出さないようにし、個人個人を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の交換など、常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一諸楽しめるように、準備、配膳等できることはその利用者に合わせ手伝って頂きながら食事をし、後片付けも職員と一緒に進めていたが、現在は介護度も4、5の方が増えており、一部の利用者様に限定されている。	法人の管理栄養士により、行事食や旬の食材を取り入れた献立に基づいて、厨房で調理された食事が提供されている。汁物とご飯はキッチンで作っている。百歳のお祝い会でお寿司の食べ放題をしたり、恒例の餅つき大会も楽しみの一つとなっている。入居者の希望を取り入れたメニューも取り入れている。外食は家族と出かけている。今後おやつ作りなども予定している。	食事を一緒に楽しめるよう入居者と職員が同じテーブルで会話をしながら、同じ食事をされることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作った栄養コントロールされた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄に合わせた支援を行っている。	トイレで、座位での排泄支援に心がけている。排泄のチェック表を参考に、様子を見ながら声かけやタイミングなどを工夫し、支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望を聞きながら、身体清潔保持のために入浴支援を行っている。	一人ひとりの希望を聞きながら、週2回～3回午後に入浴している。介護の状況に応じて二人で介助し、湯船につかりゆっくりと入浴をしてもらっている。また同性介助にも気を配っている。季節に合わせて、ゆず湯やしょうぶ湯にして入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠がとれるような環境作りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認したうえで服薬管理し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の利用者様の興味や趣味などを伺いながら出来るだけ楽しめる活動がして頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの保育園の運動会や地域の行事に参加する為に出出するのを支援しています。	荒子川公園やブルーボネットに出かけ、桜まつりやラベンダーフェアなど季節の花見を楽しんでいる。近くのコンビニへ買い物に行ったり、夕方に周辺の散歩に出かけている。普段行けない所や外食は、家族と一緒に出かけている。	職員や家族の支援で季節の花見や行事など様々な外出を楽しむ機会があるが、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけるよう支援については、検討の余地があると考えられる。毎日のように四季の移ろいを感じながら職員と一緒に周辺を散歩するなど、日常的に外に出る機会の工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を実施している方もいるが、ご本人の希望をくみ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんど実施していないが、希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の環境作りは常に心がけている。	採光の良い食堂と居間がワンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。季節に応じた芸術的なパネル大の写真が何枚も飾られ、落ち着いた雰囲気を出している。ドアを挟んで隣合わせの小規模多機能でゲームやイベントに参加して楽しんだり、居間でテレビを見たりしてのんびり過ごしている。明るい居間には、入居者が描いた絵が飾られ、その方が下絵を描きみんなで色付けした作品も飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置などを考え、できる工夫を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については使い慣れて物を自宅から持ってきていただいたりして、気持ちよく過ごせるように配慮している。	居室の扉は少し大きめでは、一人ずつ違ったシンプルな模様があり、名札が無くても分かるようになっている。筆筒、テレビや椅子など、自宅で使用していた物を持ち込んで安心できるスペースや環境作りをしている。筆筒の上には、家族の写真や作品が飾ってあり気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての人に『安心』『安楽』な環境を提供し、心地よく生活できるように支援している。		